

「ふじのくに防災フェロー養成講座」

平成23年度 受講生募集要項

1. 「ふじのくに防災フェロー養成講座」について	2
1. 1 ふじのくに防災フェロー養成講座の目的	2
1. 2 応募資格	2
1. 3 募集人員	3
1. 4 出願期間	3
1. 5 出願書類提出先	3
1. 6 出願書類	3
1. 7 選考方法	3
1. 8 二次選考の試験日時・試験場所	4
1. 9 入学料および受講料	4
1. 10 問い合わせ先	4
2. 養成講座実施スケジュール	5
3. カリキュラム	6
3. 1 講師陣	6
3. 2 講義・実習科目	7
3. 3 地域防災セミナー	7
3. 4 修了研修(アド研修)	7
3. 5 修了判定	8
4. 開講スケジュールおよびシラバス	9
4. 1 講義・実習科目開講スケジュール(平成23～24年度)	9
4. 2 講義・実習科目シラバス(平成23～24年度)	10
4. 3 修了研修シラバス(平成23～24年度)	20
5. 受講志願書の記入方法	29
【記入例】	30
平成23年度 受講志願書	31

1. 「ふじのくに防災フェロー養成講座」について

静岡大学防災総合センターでは、文部科学省の科学技術戦略推進費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として、静岡県と連携して、標記の人材養成プログラムを平成 22 年度から実施しています。本事業の目的と受講生の募集は下記の通りですので、積極的なご応募をお待ちしております。

1. 1 ふじのくに防災フェロー養成講座の目的

自治体や企業等で災害に関する実務に従事している方をおもな対象に、災害発生後の「危機管理ノウハウ」にとどまらず、災害の事前予防を目指し、地域の災害特性を理解し、災害に関わる科学的情報を読み解ける、実践的応用力を身につけた人材を育成することを目標とする。

具体的には、i)最新の災害科学基礎知識(地震、豪雨などの自然科学的知識にとどまらず、災害時の人間行動など人文社会科学的知識も含む)修得を目的とする講義、ii)災害科学に関わる現地踏査、文献、データ収集、観測などを通じて得られた各種データの読解・処理作業などを行う実習・演習、iii)担当教員の個別指導によるセミナーを通じ、災害科学的基礎を背景とした実践的応用力を養う。受講者には、最終的に自らの課題をとりまとめ、学会など外部での発表を義務づける。

講義・実習、とりまとめた課題の発表などが達成された段階で、静岡大学及び静岡県より「ふじのくに防災フェロー」の称号が付与される。

1. 2 応募資格

下記(1)および(2)の要件の双方を満たすこと。個々の応募者が要件を満たしているか否かについては、防災フェロー研修実施委員会¹が判定する。

(1)次の資格等のうちいずれかを有する者

・「静岡県防災士」(平成 22 年度からは「ふじのくに防災士」)の称号を有する者。日本防災士機構による「防災士」の称号を有する者。その他、防災、災害対応、防災教育に関わる資格を有する者。防災関連の学部学科を卒業、または防災関連の大学院修士課程以上を修了または在学中の者。その他防災フェロー研修実施委員会が適当と認める者。

(2)行政機関、企業、学校等において、防災に関わる業務に従事している者

・例えば、市町村や県の防災関連部局(危機管理系部局のほか土木・教育・福祉なども含む)の職員、企業の防災担当者、防災報道に携わっている者、ライフライン系企業や防災関連コンサルタント企業等の社員、学校で防災教育に携わっている教職員など。

・「業務に従事」とは、その仕事に従事することにより、何らかの報酬を得ている者を指す。たとえば地域の自主防災組織への関与は「業務」とは見なさない。

¹ 防災フェロー研修実施委員会は、本講座の実施・運営に関する事項を取り決める委員会。防災総合センター長を委員長とし、学内外の委員で構成される。

・現在防災関連の業務に従事している者のほか、行政機関職員等で今後防災関係部署に配属される可能性のある者や、防災関連の大学院に在学中の大学院生など、今後防災関連の業務に従事する予定がある者も対象とする。

また、最低限必要な能力として以下がある。

- ・自力で、電子メールでの日常的なコミュニケーションがとれること。選考過程、講座実施中の、諸連絡や個別指導の際の通信手段はすべて電子メールが用いられる。
- ・ノートパソコンを所持し自力で使用できること。無線 LAN 接続が自力でできること。

1. 3 募集人員

10名程度

1. 4 出願期間

平成23年12月28日(水)～平成24年1月13日(金)

※出願書類は1月13日(金)必着のこと。

1. 5 出願書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学防災総合センター

※封筒に「ふじのくに防災フェロー養成講座志願書在中」と記載のこと。

1. 6 出願書類

①受講志願書

②防災に関係すると思われる免許、資格に関する証明書等のコピー

1. 7 選考方法

(1)一次選考(書類審査)

受講志願書の内容をもとに、まず応募資格を満たしているか検討する。その上で、志願者が取り組みたいと考えているテーマの指導可能性について検討する。なお、平成22年度応募者で、「準合格者」と通知された者については一次選考を免除する。

選考結果は、平成24年2月上旬に本人宛に通知する。

(2)二次選考(面接・口頭試問)

一次選考の結果、本講座への受け入れ可能性があると判定された志願者に対して、口頭試問及び面接を行う。受講志願書と口頭試問・面接の結果により、防災フェロー研修実施委員会が総合的に判定する。

選考結果は、平成24年2月下旬に本人宛に通知する。

1. 8 二次選考の試験日時・試験場所

平成24年2月19日（日）

静岡市駿河区大谷 836 静岡大学 静岡キャンパス内

・二次選考対象者に対してのみ実施する。実施の有無や場所は、平成24年2月上旬に本人宛に通知する。

・対象者多数の場合は、別途予備日を設ける場合がある。

・二次選考に先立ち、対象者に対して志願内容に関する問い合わせを行う場合がある。

1. 9 入学料および受講料

・入学料，受講料は無料とする。

・講義等のため本学に来る際の交通費，講義実習に際して必要となる参考書等，修了研修に際して行われる現地調査や学会発表の為の旅費等は，原則として自己負担となる。

1. 10 問い合わせ先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学防災総合センター

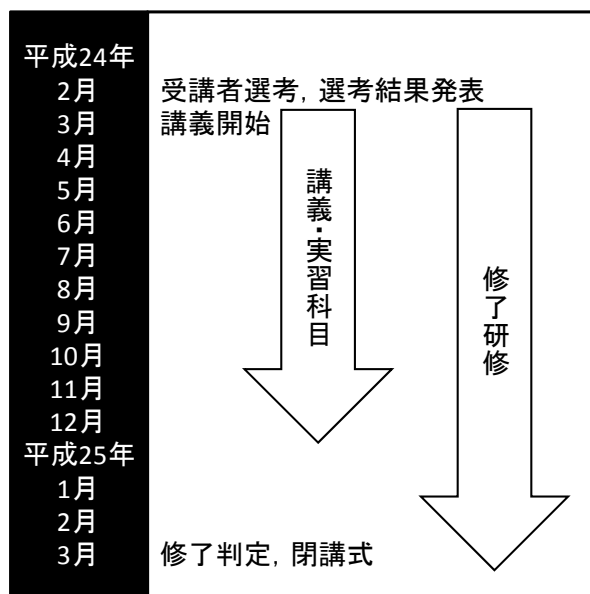
TEL:054-238-4254 FAX:054-238-4911

E-mail: sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

ホームページ <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/fellow/>

2. 養成講座実施スケジュール

平成 23～24 年度(第 2 期)



- ・ 講義, 実習は原則として土曜の9時半～18時の間に開講される.
- ・ 修了研修は随時実施される.
- ・ 研究テーマによっては, 平成25年度まで何らかの作業や指導が継続される場合がある.

3. カリキュラム

3. 1 講師陣

氏名	本務校	専門分野	担当内容
生田領野	静岡大学	地震学, 測地学	B
牛山素行	静岡大学	自然災害科学, 災害情報学, 豪雨災害	A, B
風間聡	東北大学	水工水理学	A
片田敏孝	群馬大学	災害社会工学	A
狩野謙一	静岡大学	構造地質学	A, B
小林朋子	静岡大学	学校心理学・被災者の心のケア	B
小山真人	静岡大学	火山学、歴史地震学、地震・火山防災	A, B
佐藤健	東北大学	建築構造工学, 地震工学, 自然災害科学	A
島崎邦彦	東京大学*	地震学	A
土屋智	静岡大学	地震砂防学・土砂災害	B
野津憲治	東京大学*	地球化学	A, B
林拙郎	三重大学*	林学・森林工学, 砂防学	A
林能成	関西大学	地震学・地震防災	A
原田賢治	静岡大学	津波工学	A, B
前田恭伸	静岡大学	リスクアナリシス	B
増田俊明	静岡大学	構造岩石学・地球進化学	B
村越真	静岡大学	認知心理学	A, B
矢守克也	京都大学	社会心理学・防災心理学	A
伊藤谷生	帝京平成大	構造地質学	B
鶴川元雄	防災科研	火山物理学・地震学	A, B
岩崎一孝	静岡大学	自然地理学・地理情報システム研究	A, B
近藤昭彦	千葉大学	地理学	A
秦康範	山梨大学	社会システム工学・安全システム	A
石川有三	産総研	地震学・地震予知・テクトニクス	B
千木良雅弘	京都大学	地質学・応用地質学	B
増澤武弘	静岡大学*	植物生態学・植生学・環境科学	B
中川和之	時事通信	災害報道・市民防災	A
藤井直之	静岡大学	地球物理学・地震予知	B
武村雅之	小堀鐸二研究所	強震動	A
柄谷友香	名城大学	社会システム工学・安全システム	A
北村晃寿	静岡大学	第四紀の層序学・古環境学	B
木村浩之	静岡大学	地球微生物学・環境ジェノミクス	B
鈴木清史	日赤大	文化人類学・異文化コミュニケーション	A

担当内容 A：講義・実習，B：修了研修

*：名誉教授

・担当内容が A「講義・実習」のみの教員は、B「修了研修」は担当しないので、修了研修の指導を希望することはできない。

3. 2 講義・実習科目

(1)実施方法

- ・講義・実習科目は、原則として静岡大学防災総合センター内のセミナー室にて行われる。一部科目では、野外など学外での現地踏査などが行われる場合がある。
- ・開講スケジュールは別表のとおりである。この表に挙げられた科目のうち、10科目以上を履修すること。
- ・講義・実習はいずれも課題提出が求められる。開講当日に出席した上で、提出課題の内容が合格水準であると認められた場合に、当該科目の履修が認定される。
- ・講義内容と資料を、受講生がインターネット経由で視聴できるシステムを用意している。開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由での受講と課題提出を元に履修認定の対象として認める。ただし、野外実習などでネット経由での受講形態が適さない科目の場合はネット受講を認めない場合がある。

(2)講義実習の内容に関する留意点

- ・講義実習は、講演会のように講師の話を聞いていれば良いという形式のものではない。計算、作図など、数値や物理的・質的データを用いた作業を必ず伴う。
- ・講義実習の中で、高校程度の数学、物理等の基礎知識が必要となる場合がある。
- ・災害発生時の対応についてのテクニック、ノウハウといった内容はほぼ皆無である。防災に関わる自然科学、社会科学的な基礎知識が主な内容となる。
- ・受講中にノートパソコンの利用が必要となる場合がある。パソコンは各自用意すること。
- ・学内無線 LAN への接続が必要となる場合がある。無線 LAN への接続は自力で行えること。

3. 3 地域防災セミナー

地域防災セミナーは本養成講座の受講生、関係する教員や学生による研究発表を中心としたゼミである。不定期に開催される予定。受講生は、受講期間中に少なくとも1回の出席を義務づける。

3. 4 修了研修(アド研修)

修了研修は、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決め、そのテーマに関する調査研究を行い、結果をまとめるものである。とりまとめた結果は、学会等の専門的な研究発表の場で発表することを義務づける。修了研修は、担当教員と受講生との個別指導形式で行われるので、実施期日や回数などは受講生によって異なる。修了研修で指導可能なテーマについては、シラバスを参照すること。

各受講生につき担当教員は、受講決定後関係教員と受講生の打ち合わせを経て最終的に決定される。

受講出願時には、希望する修了研修のテーマを記入してもらいが、希望したテーマがそのまま採用されるとは限らない。希望テーマの学術研究としての妥当性を考え、議論すること自体も本研修の一部であり、最終的なテーマは受講生と担当教員とのディスカッションの上で決定される。

3. 5 修了判定

- ・講義実習科目を10科目以上履修し、修了研修の内容を学会等の専門的な研究発表の場で発表した者を、修了判定の対象者とする。
- ・講義実習科目の履修状況、修了研修担当教員からの報告をもとに、防災フェロー研修実施委員会が各受講者の修了判定を行う。

4. 開講スケジュールおよびシラバス

4. 1 講義・実習科目開講スケジュール(平成 23~24 年度)

科目名	担当者	開講日(すべて土曜日)
火山学	小山真人・鶴川元雄	2012/3/10
統計学演習*	村越真	2012/3/31
水理学	林拙郎	2012/4/7
リスク論	鈴木清史	2012/4/21
地震学	島崎邦彦	2012/4/28
気候学(浜松開催)**	岩崎一孝	2012/5/12
災害社会学	矢守克也	2012/5/26
河川工学	風間聡	2012/6/9
地球化学	野津憲治	2012/6/23
シミュレーション技術演習	林能成	2012/7/7
地震工学	秦康範	2012/7/21
建築防災学	佐藤健	2012/8/4
強震動・地震災害史	武村雅之	2012/8/11
治山砂防工学	林拙郎	2012/8/25
津波工学	原田賢治	2012/9/8
社会調査演習*	柄谷友香	2012/9/22
地理学演習	近藤昭彦	2012/10/6
地質学演習*	狩野謙一	2012/10/20
防災気象学	(気象庁専門家)	2012/11/3
防災法制度	中川和之	2012/11/10
災害社会工学	片田敏孝	2012/12/8
地域調査演習*	牛山素行	2012/12/22

- ・上記科目のうち、10科目以上を履修すること。
- ・「*」の科目は、教室や野外での作業を主な内容としているため、ネット経由での受講を認めない。
- ・「**」の科目は、浜松キャンパスで開講する予定。ネット経由での受講を認めない。
- ・都合により日程が変更される場合がある。

4. 2 講義・実習科目シラバス(平成23~24年度)

科目名：火山学(2012/3/10)

担当教員名：小山真人・鶴川元雄

専門分野：火山学，地質学，地球物理学，火山防災

授業内容：

火山学の最近のめざましい発展は，過去の噴火の推移・様相を解き明かすとともに，現在活動する火山の内部構造・内部過程を探り，将来の活動をある程度予測することを可能とした。この講義では，現代火山学の最新の知見を豊富なスライド・ビデオ資料を利用して学ぶと共に，火山防災の基礎知識をも身につけることを目的とする。主な内容は以下の通り：火山とプレートテクトニクス，マグマの発生と上昇，火山の種類と地形，噴火現象・噴出物，噴火災害とハザードマップ，火山の観測，火山の物理過程，噴火予知

受講要件：特になし

科目名：統計学演習(2012/3/31)

担当教員名：村越真

専門分野：災害情報、防災意識・防災行動、安全

授業内容：

災害情報や防災意識についての質問紙調査を行う際に必要となる質問紙設計の基礎から、基礎的な統計学（t検定と分散分析、ノンパラメトリック検定）、データ処理法を扱う。さらに大量の質問紙データを要約したり関連を確認する方法である多変量解析の基礎（因子分析と重回帰分析）を扱う。

受講要件：エクセル等表計算ソフトの基本的な利用ができること。

科目名：水理学(2012/4/7)

担当教員名：林 拙郎

専門分野：土砂災害，豪雨災害，地震災害，水災害，保全砂防学

授業内容：

水災害の基本は，水が生活域を流れることによって発生する。水は，空気とともに人間生活に密接な関連をもつ流体でもある。ここでは，水がもつ基本的性質を静止状態から流れる状態まで順次解説する。

1. 静水圧：水の単位と次元，水圧，全水圧と作用点
2. 理想流体の流れ：流線，流量，連続式，ベルヌーイの定理とその応用
3. 粘性流体の流れ：ニュートンの粘性の法則，円管内の層流，層流から乱流へ
4. 開水路（河川）の流れ：常流・射流・限界流，対応水深，跳水等
5. 等流の平均流速公式：エネルギー損失と各種の勾配，摩擦損失水頭，水路床の剪断（摩

擦) 応力, 平均流速公式, 流量と水深の実用計算

受講要件: 受講時, 必要な資料は配付する。

科目名: リスク論(2012/4/21)

担当教員名: 鈴木清史

専門分野: 文化人類学

授業内容:

本演習では、災害やリスクを文化人類学的視点からとらえ、人びとが、これまで災害やリスクにどのように対応して生活を営んできたのかを事例を通して紹介する。そして、災害に強い生活、共同体とはどのようなものかを考えてみる。

以下のようなテーマを取り上げる予定。

- 1) 安心・安全な生活・社会 再考
- 2) 地域で生き残る 事例
- 3) 災害の可能性やリスクをどう伝えるのか
- 4) 実際の現場で何ができるのか。
- 5) まとめ

受講要件: とくにありません。本演習は文化・社会科学系の領域になることをあらかじめご承知おき願います。

科目名: 地震学(2012/4/28)

担当教員名: 島崎邦彦

専門分野: 地震テクトニクス、震源過程論、地震発生予測

授業内容:

東海地震をはじめとして、日本およびその周辺で発生する地震のメカニズムを学ぶ。次に、地震のメカニズムダイアグラムの読み方の演習を行う。各種地震情報に基づき地下で何が起きているか、考えを巡らすことができる能力を身につけるのが目的。東海地震判定会の議論の追体験をする。

- 1 プレートテクトニクスに基づく、地震発生メカニズムの学習
- 2 地震メカニズムダイアグラムの学習
- 3 地震メカニズムダイアグラムの演習
- 4 地震情報とプレート境界地震、浅発地震、沈み込むプレート内地震、スラブ内地震
- 5 東海地震の震源域における地殻変動、地震活動の変遷

受講要件: マグニチュード、震度、余震、地球の層構造など、地震のイロハは既習のこと。

科目名：気候学(2012/5/12)

担当教員名：岩崎一孝

専門分野：気候学，自然地理学，地理情報システム

授業内容：

日本の気候の特徴を、世界的視野から解説するとともに、気象データ解析の基礎について、講義と実習を行う。

- ・世界の風系（大気大循環、気団、前線）
- ・日本の気候の特徴（特にマクロスケールからの視点を中心として）
- ・気象データの入手（日本のデータ、世界のデータ）
- ・気象データ解析の基礎
- ・気象データ解析実習（気象庁のデータを使って）

受講要件：MS-Office をインストールしたノートパソコンを持参できること。

科目名：災害社会学(2012/5/26)

担当教員名：矢守克也

専門分野：防災心理学，社会心理学，災害社会学，防災教育学

授業内容：

人間・社会科学の立場から防災・減災研究と実践について概説する。特に，地域防災力の向上や学校等における防災教育について，実際の手法に関する実習も交えながら詳しく論じる。主な内容は以下の通り。

- ・防災・減災に関する人間・社会科学的研究の基本的立場の解説
- ・「地域防災力」，「自助・共助・公助」といった基本用語の批判的検討
- ・防災教育に関連する手法やツールの紹介と実習
- ・災害情報に関する基礎概念（正常化の偏見など）に関する批判的検討

受講要件：特になし。

科目名：河川工学(2012/6/9)

担当教員名：風間聡

専門分野：水文学，河川工学，水資源学

授業内容：

洪水対策（治水）の概要を学ぶため，洪水の発生機構，問題点，治水の基本的な取り組みや歴史を学ぶ。主な内容は以下の通り。

- ・水循環と水文過程
- ・降雨－流出過程とモデリング
- ・河川構造物，堤防，護岸，水制

- ・治水の歴史と環境問題
- ・リターンピリオド

受講要件：身近な川をじっくりと見ておくこと。

科目名：地球化学(2012/6/23)

担当教員名：野津憲治

専門分野：地震化学、火山化学

授業内容：

地震現象や火山噴火現象を化学的な視野を中心に眺め、活動監視のための観測がどのように行われており、防災減災にどう役立つかを述べる。事例としては、2011年東北地方太平洋沖地震についても触れつつ、静岡県で災害が懸念される地震や火山をできるだけ取り上げ、静岡県の防災に役立つような内容を扱う。講義は以下の内容をカバーする。

- 1) 地震活動に関連した地下水の地球化学的観測の現状と展望
- 2) 活断層について、その地球化学的観測と活動評価
- 3) 火山活動、噴火現象と火山ガスの化学、火山ガス災害
- 4) 火山噴火活動の地球化学的な観測の現状と展望

受講要件：とくになし

科目名：シミュレーション技術演習(2012/7/7)

担当教員名：林能成

専門分野：地震学，地震防災

授業内容：

数値モデルにもとづく災害のシミュレーションは、未来の災害像を具体的にイメージさせ、その防災計画を立案するうえで欠かせない技術となりつつある。一方で、多くの場合、災害のシミュレーション結果を検証することが難しいことから、シミュレーション結果の検証を十分せずに1つの計算結果を過信・盲信してしまう事象も見受けられる。この演習では地震を中心的ターゲットとして、代表的なデータの入手法やそれを使った基礎的なシミュレーション手法について学ぶ。特に計算結果の検証と活用という部分に重点をおいて演習を進める。

科目名：地震工学(2012/7/21)

担当教員名：秦康範

専門分野：社会システム工学，安全システム

授業内容：

本講義では、地表面の揺れの強さはどのような要因によって決定されるのか、建物の揺れ方はどのように決定されるのか、過去の地震被害と災害の進化、地震被害想定的手法と

その精度，について学ぶ．演習では，①建物の揺れ方について小型振動台を用いた振動実験で建物の揺れ方を確認する，②簡易型地震被害想定システムを用いて様々な地震を想定した被害を予測してみる，ことを実施する．主な内容としては以下を予定している．

- ・地震動の伝播と増幅（震源効果，伝播効果，サイト効果）など地震工学の基礎
- ・建物の揺れ方（地震動の周期特性と建物の揺れやすさの周期特性）と対策
- ・地震による社会基盤施設の被害，二次被害（火災，道路など）
- ・地震被害想定

受講要件： Windows ノートパソコンを持参することが望ましい．

科目名：建築防災学(2012/8/4)

担当教員名：佐藤 健

専門分野：建築構造工学，地震工学，自然災害科学

授業内容：

地震の揺れと建物の被害との関係について，構造部材，非構造部材，室内空間などに着目し，耐震基準の変遷と対応させながら概論的に論ずる．東日本大震災の学校施設を中心とした被災状況とその教訓についても論じる．主な内容は以下の通り．

- ・建物被害と室内被害
- ・建物の耐震基準
- ・建物の振動特性
- ・事業継続計画（BCP）
- ・地震災害時の負傷要因とその予防
- ・東日本大震災の教訓と防災教育

受講要件：特になし

科目名：強震動・地震災害史(2012/8/11)

担当教員名：武村雅之

専門分野：地震学

授業内容：

昨年 3 月 11 日の東日本大震災を受けて、地震災害史の重要性が指摘されている。東日本大震災と関東大震災を通じて、災害史の立場から、津波想定に何が欠けていたかと我が国の地震防災の出発点で何があったかを解説する。さらに後者に関して我が国の耐震設計における地震外力の歴史について解説する。強震動予測がある程度出来るようになった現在でもその設定の悩みは尽きない。その上で単に科学技術を信奉するだけでは解決できない地震防災の課題を議論したい。主な内容は以下の通り

第 1 部 災害史から学ぶ

その 1 2011 東日本大震災：津波想定に欠けていたものは何か？

その2 1923 関東大震災 : あの時の教訓の上に今がある

第2部 強震動と地震荷重

その1 強震動理解の基礎

その2 地震荷重の考え方と歴史

課題は、「郷土に残る災害の跡探し」レポート

受講要件：武村著『地震と防災』中公新書（2008）（定価 760 円）を読むことが望ましい。

科目名：治山砂防工学(2012/8/25)

担当教員名：林 拙郎

専門分野：土砂災害，豪雨災害，地震災害，水災害，保全砂防学

自然荒廃，自然災害の発生形態を解説し，その主要因，火山・地震・豪雨からいかに山地荒廃や土砂災害が発生するかを斜面，流域の視点から解説する。

授業内容：

1. 自然環境の荒廃形態：自然荒廃の特徴，各種の荒廃形態（火山の影響・煙害地・山崩れ・地すべり等）の概要
2. 山地災害と自然災害：地震性崩壊，崩壊発生メカニズム，くさび形・折線状・円弧状等の崩壊，崩壊物質の移動到達距離
3. 豪雨と土砂災害：降雨特性と豪雨災害，降雨強度，日雨量の超過確率，日雨量と崩壊面積率，豪雨指数，降雨-浸透-流出過程，タンクモデル
4. 土石流と溪流保全構造物：土石流の特徴・発生形態・発生条件，荒廃流域の形態区分と土砂流出，溪流保全と保全構造物
5. 豪雨災害の予測：タンクモデルによる災害発生予測，実効雨量法，土壌雨量指数，降雨による土石流の発生限界，累加雨量と土砂災害の発生・非発生

受講要件：「林拙郎：保全砂防学入門，電気書院，2008」を使用。図書館等で用意のこと。

科目名：津波工学(2012/9/8)

担当教員名：原田賢治

専門分野：津波工学，津波防災，海岸工学，水工学

授業内容：

災害対策を担う人材の基本的要件として災害に関する科学的基礎知識の理解・修得は不可欠である。本講義では，津波災害を対象としてその発生メカニズムや災害としての特徴，津波防災対策について科学的基礎知識を基に理解する事を目的とする。主な内容としては，以下の様な内容を予定している。

- ・ 物理現象としての津波
- ・ 津波による災害
- ・ 津波防災対策技術の概説

受講要件：特になし

科目名：社会調査演習(2012/9/22)

担当教員名：柄谷友香

専門分野：都市防災計画，土木計画

授業内容：

行政や地域における災害対応や対策を講じる際に，過去の災害現場対応に学ぶべき点は多い。この演習では，最近の災害事例を対象として，災害対策本部や避難所運営，生活再建に果たす地域の役割など各災害対応フェーズにおける対応実態を記録・整理し，今後の防災対策に向けた教訓を抽出する方法を学ぶ。主な内容は以下の通りである。

- ・災害対応を把握するための社会調査と実践
- ・災害対応記録を教材とした知識や知恵の抽出
- ・災害対応能力の養成に向けた総合討論

受講要件：特になし。

科目名：地理学演習(2012/10/6)

担当教員名：近藤昭彦

専門分野：地理学、水文学

授業内容：

災害(ディザスター)は人と自然の関わりが希薄になった時および場所で発生しやすい。自然現象でもある豪雨や地震などのハザードをディザスターにしないためには、素因となる地域の自然、特に地形の成り立ちを良く理解しておく必要がある。そこで、この演習では地形学および水文学の成果に基づき、地表面の形態的特徴から、それを作ったプロセスの理解を試みる。そのプロセスは自然現象であるが、人が関われば災害になるからである。河川地形、海岸地形、山地地形（地すべり、崩壊、土石流）、および人工地形を対象として、その成り立ち、性質および人の暮らしとの関わりについて事例を通して解説する。演習の際には、空中写真および地形図の簡単な判読を併用して理解を深める。

受講要件：画像判読のためにラップトップ PC を持参することが望ましい。

科目名：地質学演習(2012/10/20)

担当教員名：狩野謙一

専門分野：地質学，地質図学，地質調査法

授業内容：

地域の地盤についての情報源であり防災とも密接に関連している地質図について，その基礎，原理，作成法，利用法などについて学ぶ。主な内容は以下のとおり。

- ・地質図と何か（その基礎，原理，事例）

- ・ 地質図の作成法（地質調査と地質図学の基礎）
- ・ 各種地質図とその利用(特に防災・環境との関係)

受講要件：定規(長さ 20cm 程度), 三角定規, 分度器, 鉛筆(ボールペン不可), 消しゴムを持参すること

科目名：防災気象学(2012/11/3)

担当名：(気象庁専門家)

専門分野：レーダー気象、防災気象、防災気象情報全般

授業内容：

気象災害に関わる気象情報の仕組み、精度、利用方法などについて解説する。

・ 気象災害(洪水害、浸水害、風害、落雷害)をもたらす気象現象(集中豪雨、竜巻、高潮)の解説とその予測精度

- ・ 気象災害に関わる警報・注意報・気象情報の体系と概要
- ・ 大雨と洪水の警報・注意報の基準設定と災害発生までの猶予時間
- ・ 気象情報の利用方法
- ・ 台風情報の概要と利用方法

受講要件：なし

科目名：防災法制度(2012/11/10)

担当教員名：中川和之

専門分野：災害報道, 市民防災, 災害救援

授業内容：

災害被害の軽減や未然防止、災害時の対応の根拠となる災害対策基本法、災害救助法、被災者生活再建支援法、建築基準法、耐震改修促進法、宅地造成等規制法、水防法、砂防法、気象業務法、土砂災害防止法、激甚災害法などについて、成立や改正の経緯を解説。自治体による災害対策のための条例の事例についても紹介する。特に、行政として単独で行える実務運用よりも、住民や事業者などとの関わりが重要になる点について、その法的根拠と望ましい実務のあり方を、行政側、住民・事業者側の双方の視点で考え、実践的に運用できる力を養う。以下を重点的に考える。

・ 関東大震災や伊勢湾台風、阪神・淡路大震災という大規模災害が法体系に与えている影響を理解する。東日本大震災を踏まえた法制度の改正の動きについても把握する。

・ 耐震改修促進法、宅地造成等規制法、土砂災害防止法や、東日本大震災後の津波防災対策など、近年行われてきた防災・減災の視点での法改正と、そのために必要な現場での取り組み事例や望ましい方策を考える。

・ 大規模地震対策特別措置法や地震防災対策特別措置法、地震調査研究推進本部の地震の長期予測と東南海・南海や日本海溝・千島海溝の各地震の特別措置法、地震対策大綱、

減災目標を定めた地震防災戦略、応急対策活動要領という、近年確立した地震対策の法的枠組みの流れと、それを支える被害想定的高度化と限界を知る。

・近年のほとんどの災害で「特例基準」での運用を行っている災害救助法の事例について詳細を学び、災害時の望ましい法運用への姿勢を身につける。

・法に基づいて自治体で作られる地域防災計画について、特に被災経験に基づいた改正を行った自治体の事例を取り上げて分析し、自らの地域の計画やマニュアルをどのように見直す必要があるのかを検討する。

・実際の災害対応を行った自治体職員の経験から、法と現実の狭間で何をなすべきかの姿勢を学ぶ。

受講要件：特になし

科目名：災害社会工学(2012/12/8)

担当教員名：片田敏孝

専門分野：災害情報学，避難行動，ハザードマップ，防災教育

授業内容：

災害時の住民避難に関わる諸課題を学ぶ。主な内容は以下の通り。

- ・災害時の住民避難の現状
- ・避難に関わる住民心理
- ・災害情報の住民理解
- ・避難適正化のための住民とのコミュニケーション
- ・ハザードマップ概論

受講要件：積極的に議論に参加する姿勢で受講されたい。

科目名：地域調査演習(2012/12/22)

担当教員名：牛山素行

専門分野：自然災害科学，災害情報学，豪雨災害

授業内容：

地域の災害に関わる調査研究や、住民参加型防災ワークショップの企画などに際しては、対象地域の自然・社会的な性質を把握することがまず重要である。この演習では、全国的に整備されている情報を活用して、特定地域の災害・防災に関わる「地域の概要」(簡単な地誌)を作成する方法を学ぶ。主な内容としては以下を予定している。

- ・対象地域の概要・社会条件についての調査(略図の作成，地域略史，人口概要)
- ・対象地域の自然条件についての調査(地形，気象，河川)
- ・対象地域の自然災害に関する調査(過去の災害記録，ハザードマップ的情報，被害想定)
- ・現地での調査(地形図の活用と注意事項，現地踏査)

事前に配布した資料を参考に各自で調査した結果を実習当日に報告し，その内容を評価

する。講義・実習の最終回となるので、これまでの各講義で学んだ内容を踏まえた報告であることが求められる。

なお、本講については、プレゼンテーションや質疑への応答を含めて評価を行うので、ネット経由での受講は認めない。

受講要件：特になし

4. 3 修了研修シラバス(平成 23~24 年度)

教員名：生田 領野

所属：理学部地球科学科・助教

専門分野：地震学，測地学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：東海地域のプレート間固着状態の監視

内容概略：GPS を用い，東海地方の地下におけるフィリピン海プレートと陸側プレートの間の固着状態の時間変化を調べる。

日本列島は沈み込む海洋プレートに押し込まれることでその内部に歪みを溜め込んでいる。この歪みに伴う弾性エネルギーが断層やプレート境界のズレを伴って開放される過程が地震である。この歪みは地表でも観察することができ，この歪みを詳細に観察することで，地下で沈み込んだ海洋プレートが陸側のプレートを押し込む強弱の分布（固着分布）を知ることができる。本研修課題では，東海地方に沈み込むフィリピン海プレートと陸側プレートの間での固着分布の時間変化を GPS で観測された地表の変位記録から調べる。

教員名：牛山 素行

所属：防災総合センター・准教授

専門分野：自然災害科学，災害情報学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：災害に対する意識の地域間比較

内容概略：自然災害に対する意識(たとえば危険だと思ふ程度や災害時の避難意向など)は地域によっても異なることが知られているが，その詳細は必ずしも明らかになっていない。過去の災害経験などにもとづく災害意識が，種類の異なる新たな災害時にかえてマイナスに働く可能性もあり，各地域の災害意識を，他地域との比較や，当該地域の自然・社会的属性を踏まえて把握することは，地域防災を考える上で重要な基礎情報となる。事例地を設定し，住民対象の社会調査などによって地域間の災害意識の比較を試みる。

テーマ(2)：効果的な災害情報に関する研究

内容概略：津波や大雨に関する情報の改善や検討が進んでいるが，必ずしも根拠にもとづく改善が行われていない面がある。既存の情報のランク(津波注意報→津波警報→大津波警報，など)が正しく理解されているか，あるいはどのような表現ならば人は危機感を持つのかなどについて，情報の受け手の意識や，外力と災害発生の相関関係の解析などを通じて検討する

なお，複数の応募者があった場合，すでに共同研究・共同調査を実施している行政機関・民間企業の関係者を優先して受け入れるものとする。

担当教員名：狩野謙一¹⁾・伊藤谷生²⁾

専門分野：構造地質学

所属：¹⁾ 理学部・教授 ²⁾ 防災総合センター・客員教授

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：富士川河口断層帯地震探査とその高分解能反射法処理

内容概略：静岡大学防災総合センターが実施する富士川河口断層帯地震探査に参加し、取得データの高分解能反射法処理によって同断層帯の地下形状を明らかにします。地下形状は、震源断層に繋がる主要断層の特定、地表における断層変位の分配等の評価にとって極めて重要だからです。それらの結果とこれまでに得られている地表地質・地形データとを合わせて、東海地震震源域北端部に位置する富士川河口断層帯の活動性を詳細に検討し、防災・減災対策に貢献します。また、この研修を通じて、地震探査におけるデータ取得と処理方法、地震探査結果解釈の基礎を習得することができますので、今後、富士川河口断層帯に限らず防災上必要な地下構造調査に携わる際にも大いに役立つでしょう。内容について希望があれば相談に応じます。なお、処理作業の一部は、千葉大学理学研究科などの地震探査処理システムを借用する場合があります。

テーマ(2)：富士川河口断層帯地震探査とその精密屈折法処理

内容概略：静岡大学防災総合センターが実施する富士川河口断層帯地震探査に参加し、取得データの精密屈折法処理によって同断層帯ならびに周辺の詳細な速度構造を明らかにします。速度構造は地下地質体が何であるかを推定する上で極めて重要だからです。その結果とこれまでに得られている地表地質分布ならびに断層データとを合わせて、東海地震震源域北端部に位置する富士川河口断層帯の活動性をより詳細に検討し、防災・減災対策に貢献します。また、この研修を通じて、地震探査におけるデータ取得と処理方法、地震探査結果解釈の基礎を習得することができますので、今後、富士川河口断層帯に限らず防災上必要な地下構造調査に携わる際にも大いに役立つでしょう。内容について希望があれば相談に応じます。なお、処理作業の一部は、千葉大学理学研究科などの地震探査処理システムを借用する場合があります。

担当教員名：小林朋子

専門分野：臨床心理学、学校心理学、心のケア

指導可能なテーマと内容：

テーマ①災害後の心のケアに関する研究

被災地での心のケアに関して、被災者の心理プロセス、こころを支えていくための支援者の体制作りや研修プログラムなど、統計および質的な研究を通した心理学的・社会学的な研究を行います。

注意）実際に研究調査を行うことが可能なフィールドをお持ちの方に限ります。

テーマ②心のケアに関する災害発生前の予防的な取り組みに関する研究

災害が発生してからのケアだけでなく、災害が発生する前に心が受けたダメージを速やかに回復していくための予防的なアプローチについて研究を行います。

教員名：小山 真人

専門分野：火山学、地質学、地震・火山防災、災害リスク評価

指導可能なテーマと内容：

(1) 伊豆東部火山群の群発地震のリアルタイム詳細震度計測・公開システムの開発

内容概略：1978年以來、伊豆東部火山群では地下のマグマ活動が断続的に引き続き、しばしば群発地震を発生させている。気象庁は2011年3月から伊豆東部火山群に対する「群発地震の予測情報」と噴火警戒レベルを導入し、自治体はそれに応じた地域防災計画と火山防災協議会の設立を準備中である。この「群発地震の予測情報」を有効に活かすためには、個々の地震の詳細震度分布を即座に把握し、公表していくことが大前提となるが、既存の震度計の少なさや設置費用が足かせとなって実現できていない。本研究は、インターネットを利用した安価・簡易型の震度計ネットワークを伊東市内に展開し、その情報を分析・公開するリアルタイム型の防災情報システムの開発を、伊東市ならびに伊豆半島ジオパーク推進協議会と連携しておこなう。

(2) 原子力災害時の基礎データとしての静岡県内の自然放射線量マップの作成と、それを通じた福島原発災害の遠隔地への影響評価

内容概略：福島原発災害による放射性微量物質の影響が静岡県内にも及び、県内産の茶葉や椎茸などから規制値を上回る放射性物質が検出されている。しかし、実際の汚染の面的状況は、微量ゆえの不明な点が多い上に、そもそも元の状態がどうであったかを示す自然放射線量の面的分布や、地層・岩石との関係などの基礎的データや考察が不足している。本研究は、核種同定が可能なスペクトル線量計を用いて県内各地の自然放射線量の測定と分析をおこない、詳細な自然放射線量マップを作成するとともに、現地に分布する地層・岩石の線量測定もおこない、線量と岩石種・地層分布との関係を明らかにする。また、地層・岩石起源の自然放射線量を考慮した上で、福島原発起源の線量増加分の評価もおこなう。

担当教員名：鵜川 元雄・小山 真人

専門分野：火山学、地球物理学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：富士山の平常時の変動と火山噴火予知について

富士山では2000年以降に地震や地殻変動の観測点が増設されて、噴火に先立つ異常現象を検知できる可能性が高くなった。異常な地殻活動を検出するためには平常時の揺らぎを知らなければならない。本研究では、まず火山噴火予知連絡会に提出され公開されている資料をもとに最近の富士山の地震活動や地殻変動の状況をレビューする。さらに国土地理院

の GEONET として公開されている GPS データを実際に用いて、富士山周辺の地盤の動きやひずみの変化を分析し、それらの平常時の揺らぎの特徴を把握する。その結果を考慮して検出できる地下のマグマの動きと噴火予知の可能性について検討する。

教員名：土屋 智

所属：農学部・教授

専門分野：山地水文学，土砂災害学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：地震時の大規模な斜面崩壊と河道閉塞

内容概略：地震時には、河川周辺斜面で生じた斜面崩壊が直下の河道を閉塞し、地すべりダムを形成することがある。斜面崩壊が大規模であれば、地すべりダムの規模とその湛水量は莫大であり、決壊するようであれば下流側の土砂災害は甚大である。このような地すべりダムによる典型的な土砂災害事例として、静岡県芝川町を流下する富士川で生じた河道閉塞があげられる。芝川町では、宝永地震、安政東海地震時に白鳥山東斜面で発生した大規模な斜面崩壊が富士川を堰き止め、決壊して下流に甚大な土砂災害を生じた。ここでは、過去二回にわたり発生した大規模崩壊について、LP 測量により作成した詳細地形をもとに崩壊地形と河道閉塞の実態を明らかにするとともに、周辺山地の崩壊危険度を把握し、近隣域における地震時の大規模な斜面崩壊の発生と河道閉塞の可能性について検討する。

テーマ(2)：河川源流部に見られる線状凹地など地形的特徴と大規模斜面崩壊

内容概略：高標高山稜において二つの稜線がほぼ平行に並ぶ地形を二重山稜、それらの稜線間にみられる窪地を線状凹地とよび、重力性の正断層による変動地形の一つとされている。しかし、中標高以下の斜面においても、尾根付近に線状凹地形を有する箇所は少なくなく、このような場合は、地山のクリープ変形の進行にともない、地表に生じた裂溝の進展が溝状凹地や二重山稜として現れた結果と捉えられることもある。ここでは、静岡市を貫流する安倍川の源流域に位置する山伏岳北東稜線部に存する典型的な二重山稜と線状凹地群を対象に、空中写真，地形図，衛星画像等を用いた地形計測を行い、その地形的な特徴を明らかにし、大規模地すべりとの関連性を考察するための基礎資料とする。

担当教員名：野津憲治

所属：防災総合センター客員教授

専門分野：地球化学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：火山活動や地震活動に伴って放出する気体の地球化学的研究

(藤井直之客員教授と共同指導する可能性あり)

内容概略：マグマの上昇に伴ってマグマ中のガス成分が分離上昇し、土壌を通して大気に放出する現象や、地下深部ガスが活断層に沿って上昇し、地殻の弱い部分を伝って放出す

る現象が報告されている。このような現象は、土壌ガスの調査（化学組成や同位体組成、ガス放出量）や、温泉鉱泉の湧出に伴って放出する深部起源ガスの化学組成、同位体組成の測定から明らかにされ、火山活動や断層活動の理解を深めることに役立ってきた。静岡県内ではマグマ上昇の可能性のある地域は東伊豆、富士山周辺に限られるが、地下深部ガスは県内各地の温泉から放出している。研修生の興味と地域的な事情に応じて、調査域を選び、そこでフィールド調査とガス試料の採取を行う。化学分析や同位体分析は、然るべき大学や研究所の装置を借りて行い、その結果をもとにマグマの動態を推定や、対象地域の地震テクトニクスとの関係を考える。

テーマ(2)：地震活動、噴火活動に関連する前兆現象の事例研究

内容概略：大地震や火山噴火の前には、温泉水や地下水の水位、水温に変化が現れたなどと言う、いわゆる宏観異常についての住民からの情報提供が多く、地震や火山噴火の発生後にマスコミで報道されたりする。しかし、この種の現象は静穏期間のデータの蓄積がないと、地震や火山噴火との因果関係を特定することはできない。最近静岡県で起きた地震やマグマ上昇現象に関連して、すでに公表されている地下水観測データをまとめ、新たなデータの発掘、現地聞き取り調査から新たな事例を付け加える。さらに、このような地下水変化の事例が本当に地震や噴火に関連した現象かどうかを判定する方法の検討を行う。

担当教員名：原田 賢治

所属：防災総合センター・准教授

専門分野：津波工学，津波防災

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：津波避難対策の現状と改善策の検討

地域における津波避難対策の現状調査および改善策の検討を行う。本テーマでは、特定の地域で津波避難対策について資料収集や現地聞き取りなどの調査を行い、津波避難対策の現状を把握するとともに、改善策を科学的分析に基づいて具体的に検討する。対策について主観的意見でなく客観的に状況分析することができ、PCを用いた基礎的なデータ分析の能力を有する者を対象とする。

テーマ(2)：南海トラフ沿いで発生する津波の来襲特性の検討

南海トラフ沿いではプレート境界型の巨大地震・津波の発生が予想されている。本テーマでは、津波数値シミュレーションに基づいて特定の地域における津波の来襲特性を具体的に検討し、津波防災対策を検討する際の資料とする。数値計算を行うため、プログラミングに対する基礎的理解がある者を対象とする。

テーマ(3)：海岸樹林帯による津波減衰効果の検討

東日本大震災に伴う津波により、仙台平野などの海岸部の樹林帯は大きく被害を受けたが、津波の進行を遅らせ、漂流物を捕捉し、津波のエネルギーを減衰させるなどにより被害を軽減する効果を果たしたと考えられる。このテーマでは、津波に対する海岸樹林帯の

効果について具体的に数値シミュレーションを用いた評価を試みる。また、太平洋側での海岸樹林帯の津波防災への利用の可能性についても検討する。数値計算を行うため、プログラミングに対する基礎的理解がある者を対象とする。

教員名：前田 恭伸

所属：工学部システム工学科・准教授

専門分野：リスクアナリシス

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：自主防災組織のための指導者養成プログラムの開発

内容概略：自主防災組織においては、会長を助ける参謀的立場の役割が重要となる。この立場の人を地域の防災リスクコミュニケーターと位置付け、このリスクコミュニケーターを養成するためのプログラムを検討する。

テーマ(2)：防災ウェブ情報活用システムの開発

内容概略：防災のための情報を様々な機関、組織がインターネット上に発信しているが、それらの間の相互の協調はあまり考えられてこなかった。ウェブ上の防災情報の相互関係を視覚化するシステムを使い、防災情報の有効活用を検討する。

テーマ(3)：光る変位計による災害警戒システムの設計と実装

内容概略：神戸大学によって開発された「光る変位計」は、岩盤やトンネルに設置することで変位を検知し、検知した場合にLEDを光らせることで、そこに居る人に、がけ崩れや地滑りのリスクを知らせることができる装置である。これまでトンネル工場の現場などで活用されてきたが、がけ崩れや地滑り等の事前警戒への応用を検討する。実際に装置を設置できる立場にいる人の受講が望ましい。

教員名：増澤 武弘・増田 俊明

所属：防災総合センター客員教授，理学部・教授

専門分野：植物生態学、植生学、環境科学

指導可能なテーマと内容：

日本列島の海岸線には防潮林・砂防林として人工林が植栽されている。ここでは海岸における人工林と潜在植生の構造と機能を扱う。

- 1.針葉樹人工林の構造
- 2.針葉樹人工林の機能
- 3.潜在自然植生の構造
- 4.潜在自然植生の機能
- 5.海岸線における潜在自然植生と災害

担当教員名：千木良 雅弘・増田 俊明

所属：京都大学防災研究所・教授，理学部・教授

専門分野：地すべり

指導可能なテーマと内容：

由比地域の地すべり解析

内容概略：静岡県由比地域では山体が崩壊するような地盤の変動が起こっているようである。この変動の開始時期の特定を目的として、浜石岳山頂付近の窪地で簡易ボーリングを行い、コア解析を行った上で年代測定用の試料を採取する。なお、年代測定は外部に委託する。

教員名：村越真

所属：教育学部・教授

専門分野：認知心理学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：防災意識・行動に関する質問紙調査

内容概略：(特に多変量解析を含めた) 質問紙調査の集計と分析による研究方法による指導

テーマ(2)：防災に関連したリスクや情報の認知

内容概略：

テーマ(3)：学校教育と防災

内容概略：学校教育における防災に関する心理学的研究

担当教員名：岩崎一孝

所属：情報学部情報社会学科・教授

専門分野：自然地理学，気候学，地理情報システム (GIS) 研究

指導可能なテーマと内容：

テーマ：GIS を用いた防災情報解析，防災情報 GIS の構築，気象災害や地震災害の地域特性の解析，地方公共団体と防災 GIS に関する研究

内容：各研究テーマとも，分析手法として地理情報システム (GIS) を用い，内容については受講生の研究希望分野に合わせて，柔軟に対応していく予定でいる。

教員名：藤井直之・石川有三

所属：防災総合センター・特任教授

専門分野：固体地球惑星物理学/火山物理学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：プレート境界の蠢きをモニターする

内容概略：2002 年に HINET で検出された深部微動やスロースリップは、東海から南海道にかけてプレート境界の深部 20～35 km で間欠的に発生している。深部微動は防災科技

研のホームページで公開されているが、この活動に呼応して様々な変動が観測されるはずである。ここでは、静岡大学の電磁アクロスデータや東海地域の微小地震活動、その他関係ありそうなデータを自ら取得・整理して、深部微動の活動との対比を試み、一般の住民にこれらの意義をやさしく説明できるように工夫する。

さらに意欲的な活動としては、噴出地下水や温泉・鉱泉などの温度や流量の変化などを検出記録するシステムを自ら作製・設置して地殻活動との対比を試みる。

参考テーマ例 1：東海地域の地殻内地震活動の特徴

参考テーマ例 2：東海地域の 3 次元地殻構造について

テーマ(2)：伊豆東部のダイク貫入をモニターする

内容概略：伊豆東部の群発地震活動はしばらく休止していたが、昨年末から再び活発化する気配を示している。この研究では、伊豆東部における普段の地震や地殻活動の変化について公表されているデータを整理し、群発地震発生に呼応する観測データに着目して分析する。例えば、地震や地殻活動、電磁気的変動についてのデータ整理と簡単な解析、あるいは自ら作製／設置した観測機器のデータとの対比を試みる。

さらに意欲的な研究活動としては、地電位観測システムとか噴出地下水・温泉・鉱泉などの温度や流量の変化などの検出記録システムを自ら作製・設置して地殻活動との対比を試みる。

参考テーマ例 1：西伊豆地域の自然災害記録とジオパーク構想

担当教員名：北村 晃寿

所属：理学部・准教授

専門分野：第四紀の層序学・古環境学

指導可能なテーマと内容：

テーマ：静岡県静岡・清水・焼津平野の津波堆積物の調査

内容概略：2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震を教訓として、津波堆積物の調査の重要性が高まっている一方、静岡県静岡・清水・焼津平野の津波堆積物の調査はほとんど実施されていない。そこで、これらの平野の海岸地域から掘削したボーリングコアの解析から、津波堆積物に関する調査を行う。

担当教員名：木村 浩之

所属：理学部・准教授

専門分野：地球微生物学、環境ジェノミックス

指導可能なテーマと内容：

テーマ：静岡県中西部の深部帯水層に溶存するメタンの分布調査とポテンシャルの推定

内容概略：静岡県中西部は「付加帯」という地形からなる。付加帯は、プレートテクトニクスによって海洋プレートが陸上プレートの下に沈み込む際に海洋プレート上の堆積物が

はぎ取られて陸側に付加したものである。付加帯は太古の海底堆積物に由来する厚い堆積層からなり、その深部帯水層には地下圏微生物による発酵作用によって生成された大量のメタンが溶存していることが知られている。一方、静岡県中西部の付加帯は駿河トラフと平行して分布しており、これらの地域は東海地震の被害想定域に指定されている。将来構想として、付加帯の深部帯水層から溶存メタンを含む地下水を汲み上げる深部掘削井戸と発電機、燃料電池をジョイントさせることによって自家的に地下水・ガス・電気を供給できる“災害時緊急マルチステーション”の構築を計画している。

ここでは、マルチステーションを構築する際に必要な基礎データを収集する。特に、静岡県中西部の温泉施設が所有する深部掘削井戸を広範囲に調査することにより、溶存メタンを含む地下水の深度および分布域の特徴を明らかにする。また、付加帯深部帯水層のメタンの自然エネルギーとしてのポテンシャルを推定する。

5. 受講志願書の記入方法

受講志願書は、次ページの書式に従ってワープロ等で作成する。手書き文書は認めない。本文は 10 ポイント程度の明朝体で入力し、罫線・飾り文字・ルビなどはいない。なお、記入用の Word ファイルを、当事業のホームページに用意してあるので、これを利用されたい。

ホームページアドレス <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/fellow/>

各事項の記入上の注意は以下の通り。

- 氏名(ふりがな):漢字で氏名を記入し、続けて(カッコ)書きで読みをひらがなで記入。外国人の場合は、英語での記入のみで可。
- 生年月日:西暦で記入
- 所属:勤務先の役所名、会社名、学校名、団体名等を、部署まで記入する。
- 連絡先:選考結果を伝えるための連絡先の住所、電話番号、メールアドレスを記入する。(勤務先・自宅)のどちらでも構わないが、どちらの住所であるのかを、「連絡先(勤務先)」のように明記する。選考過程・講座受講中の諸連絡や個別指導は、すべて電子メールによって行うので、メールアドレスは日常的に使用しているものを必ず記入すること。
- 学歴:高等学校卒業以降の学歴を、年月とともに記入する。
- 職歴:勤務先などの職歴を、年月とともに記入する。
- 免許・資格:防災に関係すると思われる免許、資格があれば記入する。記入した免許・資格に関する証明書等があればそのコピーを別紙で添付すること。
- 従事した防災関連業務の内容:現在従事している防災関連業務の内容を、10行以内で簡潔に説明する。過去に従事した、または今後従事することが予定されている業務でも良い。大学院生の場合は、これまでに行った防災関連の研究内容を説明する。
- 修了研修の指導を希望する教員名:「修了研修シラバス」を参考にして、指導を希望する教員名を記入する。希望する順に2名程度記入する。1名のみ、または3名以上記入しても構わない。複数教員が連名でシラバスを書いている場合は、シラバスの「担当教員名」欄記載の通りに両名の名前を1行の中に並べて記入すること。講義実習のみを担当している教員名を書いても無効である。かならず「修了研修シラバス」に記載されている教員名を記入すること。
- 修了研修の希望テーマ及び研究計画:修了研修シラバスを参考に、取り組みたいテーマと、そのテーマに関心を持った理由、自分としての研究計画について20行程度で記述する。

【記入例】

平成24年1月15日

平成23年度 受講志願書
「ふじのくに防災フェロー養成講座」

静岡大学防災総合センター長 殿

「ふじのくに防災フェロー養成講座」の受講を希望いたします。

氏名(ふりがな) 静岡 太郎 (しずおか たろう)

生年月日 1970年2月1日

所属(勤務先) 株式会社ぼうさい 技術部

連絡先(勤務先)

住 所 静岡市駿河区大谷***
電話番号 054-238-****
メール taro@shizuoka.**.jp

学歴(高校卒業以降)

****年3月 静岡県立〇×高等学校卒業
****年3月 静岡大学××学部卒業

職歴

****年4月 株式会社ぼうさい

免許・資格

静岡県防災士, 土木学会認定1級技術者

従事した防災関連業務の内容(10行以内)

株式会社ぼうさい技術部に勤務し, 主に河川, 砂防関係構造物の設計に従事している.
最近では, 〇×川の河川改修事業に当たり, ××の業務に従事した.

修了研修の指導を希望する教員名

第1希望: 牛山素行
第2希望: 増澤武弘・増田俊明

修了研修の希望テーマ及び研究計画(20行以内)

私は・・・

平成 年 月 日

平成 23 年度 受講志願書
「ふじのくに防災フェロー養成講座」

静岡大学防災総合センター長 殿

「ふじのくに防災フェロー養成講座」の受講を希望いたします。

氏名(ふりがな)

生年月日

所属(勤務先)

連絡先(勤務先・自宅)

住 所

電話番号

メール

学歴(高校卒業以降)

年 月

職歴

年 月

免許・資格

従事した防災関連業務の内容(10行以内)

修了研修の指導を希望する教員名

第 1 希望 :

第 2 希望 :

修了研修の希望テーマ及び研究計画(20行以内)